

# 国際文化交流学科履修案内

(2006から2009年度入学者に適用)

## 【国際文化交流学科の教育目標】

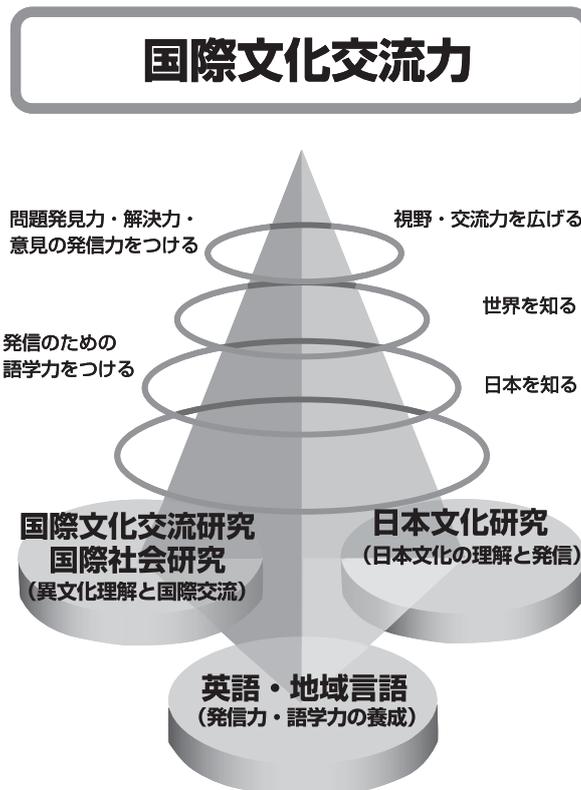
国際文化交流学科は、異文化交流、日本文化発信、外国語の三つの力を総合的に養成したいと考えている。言い換えれば、この学科に入学したあなた方一人ひとりに、文化の異なる人たちと共生しながら日本文化を発信できる人になってもらいたいと思っているのである。

日本文化と他の諸文化との共通点・相違点を知り、文化の障壁を乗り越えながら、心を開いて異文化の人たちとコミュニケーションできる人。日本文化のなかの良いものを見極め、それを外国語で発信できる人。そうして、平和な世界を築き人類の文化を豊かにすることに貢献できる人。そういう人を育てるのが国際文化交流学科の願いである。

## 【カリキュラムの概要と特色】

国際文化交流学科のカリキュラムは上述の教育目標を実現できるように組み立ててある。その構造を理解しながら、科目を履修してほしい。

まず、カリキュラム全体の構造に注目してみよう。国際文化交流学科の科目を大きく捉えれば、日本文化研究、国際文化交流研究・国際社会研究、英語・地域言語という三つの科目群が三位一体型に組み合わされている。それぞれ、日本文化発信力、異文化交流力、外国語力を伸張させるのを主眼とする科目群である。これら三群の総合により、あなた方一人ひとりが、いわば国際文化交流力とでもいうべき力を身につけることになるのである。また、個々の科目は、一年次から四年次へ進むにつれて、導入・展開・総合という骨格に沿いながら配置されていて、無理なく力が養成されてゆくようになっている。



## 【専攻科目の履修要領】

以下の記述は、「教育課程表」を見ながら読んでほしい。なお、ここでは、それぞれの科目群の概略と注意事項だけを述べる。それぞれの科目の詳しい内容については「シラバス」を参照してほしい。

また、学科を卒業するための履修の仕方に関する重要事項は「教育課程表」のうしろに「履修要件」、「進級要件」、「卒

**業要件**」としてまとめられているので、しっかり読んでもらいたい。

## 1. 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、国際文化交流学科における学修の基礎作りをする科目群である。

### (1)「国際文化交流入門」(必修。1年次)

これは、国際文化交流学科における学修への導入、ならびに「専門展開科目」のなかの「国際文化交流研究」科目群への導入となる科目である。なお、この科目が「必修」と分類されているのは、卒業するためには必ず履修しなければならない科目、という意味である。この点は、以下も同様であるので繰り返さない。

### (2)「国際文化交流基礎演習」(必修。1年次)

演習方式で、国際文化交流学科における学修の基礎作りをする科目である。20名程度の少人数制で指導がなされる。なお、「演習」とは、少人数制で、討論や履修者による研究発表などを中心にする科目であることを示している。この点は以下も同様であるので、繰り返さない。

### (3)「英語」(必修)

1, 2年次の「外国語科目」としての「英語」(7科目14単位必修)に加えて履修する科目群である。

## 2. 専門基幹科目

「専門基礎科目」の学修を踏まえながら、「専門展開科目」への橋渡しをする科目群である。

(1)「国際社会研究入門」(必修。1, 2年次)「専門展開科目」のなかの「国際社会研究」科目群への橋渡しをおこなう科目である。

(2)「日本文化研究入門」(必修。1, 2年次)「専門展開科目」のなかの「日本文化研究」科目群への橋渡しをおこなう科目である。

(3)「英語」(選択必修。2, 3, 4年次) この科目群は、1, 2年次の「外国語科目」としての「英語」、および学科の「英語」(8単位必修。前述)と合わせて学修することになる。これにより、文化の発信と交流に不可欠な伝達手段を身につけてほしい。なお、「選択必修」科目とは、同一の「選択必修」科目群(この場合なら「専門基幹科目」のなかの「選択必修」としての「英語」)のなかから、卒業に必要な単位(この場合なら6単位)をかならず履修しなければならない科目のことである。以下の「選択必修」についても同様であるので、繰り返さない。

## 3. 専門展開科目

専門基礎科目を土台にして、学修や研究を拡大あるいは深化させる科目群である。

### (1) 地域言語科目(選択必修。1, 2, 3年次)

「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「ロシア語」、「中国語」、「朝鮮語」のなかから一言語を選び、8単位履修する。英語圏以外では、現地の言語を知らなければ庶民水準で交流することができない場合が多いので、英語に加えて、しっかり学修してほしい。

「日本語」(選択必修。1~4年次)は、外国人留学生、または帰国生徒などで日本語力が不足している者だけが履修できる科目である。

### (2) 日本文化研究科目、国際文化交流研究科目、国際社会研究科目

三つの分野のそれぞれについて4科目(8単位)以上をかならず履修して、片寄りのない視野を身につけてもらうようになっている。それに加えて、どれかの分野を重点的に履修してもよい。

#### 日本文化研究科目(選択必修。1~4年次)

国際的な文化交流には、日本文化を発信できる力が欠かせない。日本文化の多様な側面を深く学んで、明確に認識し、文化背景の異なる人に伝えられるようになってほしい。

#### 国際文化交流研究科目(選択必修。1~4年次)

世界各地の文化を幅広く学ぶとともに、それらを日本文化と比較し、文化背景の異なる人たちと交流する際の問題点は何かを認識する科目群である。

#### 国際社会研究科目(選択必修。1~4年次)

世界のさまざまな地域の現在の姿を学ぶ。世界の人たちと交流する際に必要な知識を身につけてほしい。

## 4. 総合演習(必修)

基礎研究および展開的研究の成果を総合してゆくための科目である。

(1)「フィールド演習」(必修。2年次) これは、後述の「国際文化交流専門演習II」の準備をする演習科目である。

(2)「国際文化交流専門演習I」(必修。2年次) 少人数制で教員の指導を受けながら、日本文化、国際文化交流、国

際社会に関する研究を深めてゆく科目である。同時に、問題の発見能力や解決能力、意見の発信力も育ててゆくことになる。

(3)「国際文化交流専門演習 II」(必修, 3年次) 少人数制で教員の指導を受けながら、日本文化、国際文化交流、国際社会に関して研究した事柄を総合するとともに、フィールドワークもおこなって、応用力を育てる科目である。

## 5. 関連科目

### (1) 日本語教育研究(選択, 2, 3年次)

国際文化交流学科では、「日本語教員養成課程」(「資格教育課程」参照)の一部をなす科目群が、学科の卒業単位の算入可能な科目として開講されている。なお、「日本語教員」とは、外国人に日本語を教える先生を指している。

### (2) 知識や視野を広げる科目, 実技・実践科目(選択, 1~4年次)

現代人には必須の「情報処理」や、「広告文化論」などの知識・視野の拡大に役立つ科目、「出版編集実務論」のような実践科目が履修可能である。

(3) 地域言語特講(選択, 原則として3, 4年次) ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, 朝鮮語, 日本語に関して多様な講義が開講される。

### (4) 外国語学部ゼミナール(選択, 2, 3年次)

少人数制で、教員の指導を受けながら研究を深め、問題の発見能力や解決能力、意見の発信力を育ててゆく科目である。教員の研究分野にしたがい、多様なゼミナールが開講される。

### (5) 卒業研究(選択, 4年次)

「国際文化交流専門演習 II」のつぎに履修してもよいし、「外国語学部ゼミナール II」, 「地域言語特講 I・II」のつぎに履修してもよい。少人数制で、教員の指導を受けながら、研究の仕上げをおこなう科目である。

## 【履修モデル】

四年間の学修の道しるべとして、つぎのような履修モデルを参照するのもよいだろう。なお、当然ながら、どのモデルの場合にも、学科の卒業に必要な最小限の単位は科目群ごとにすべて履修しなければならない(たとえば「日本文化研究」の8単位以上など)。そのうえで、それぞれのモデルに必要な科目を重点履修するのだと考えてほしい。

## 1. 文化ビジネス・モデル ~国際感覚, 日本文化発信, 創造性~

### 【趣旨】

国際社会の中で日本文化の特色を理解するとともに、日本文化を海外に向けて発信できる国際感覚豊かで創造的な人を目指す。

### 【将来の職業】

旅行・観光業, ホテル, 放送・マスコミ, 出版関係, 海外研修斡旋, 文化イベント企画など。

### 【科目履修モデル】

|        |  |
|--------|--|
| 専門基礎   | 必修(12単位)   |
| 専門基幹科目 | 必修(4単位)<br><英語> 選択必修(6単位)<br>日本文化英語演習・国際文化英語演習・英語研究<br>CALL / L L 演習・海外英語研修  |
| 専門展開科目 | 必修(8単位) + 選択必修(34単位)<br><日本文化研究><br>日本文化論(2単位×2) 日本芸能論(2単位) 日本思想史(2単位)<br>日本文化史(2単位) 伝統工芸論(2単位)<br><国際文化交流研究><br>国際文化論(2単位×3) 文化比較論(2単位×3)<br><国際社会研究><br>国際社会論(2単位×2) 国際事情(2単位×3) |
| 総合演習   | 必修(10単位)   |
| 関連科目   | 情報処理 (2単位)・ (2単位) 日本政治史(2単位) 国際法(2単位) アメリカ経済論(2単位) ヨーロッパ経済論(2単位) 中国経済論(2単位) 観光論(2単位) 広告文化論(2単位) ジャーナリズム論(2単位) マスメディア論(2単位) 出版編集実務論(2単位)  |

## 2. 観光学モデル ~草の根レベルの国際理解の助っ人~

### 【将来の職業】

旅行代理店勤務, ホテルマン, フライト・アテンダント, 航空会社地上スタッフ, 旅行ガイド・通訳, など。

### 【科目履修モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。

#### <国際文化交流学科開講科目>

- 「英語」選択必修科目から, 日本文化英語演習, 国際文化英語演習
- 「日本文化研究」科目から, 日本文化論, 日本芸能論, 日本民俗学, 日本文化史
- 「国際文化交流研究」科目から, 国際文化論, 文化比較論
- 「国際社会研究」科目から, 国際社会論, 国際事情
- 「関連科目」から, 観光論, 経済地理, アメリカ経済論, ヨーロッパ経済論, 中国経済論

#### <教養系科目>

芸術論(美術), 芸術論(音楽), 人文地理学, 文化人類学, 環境科学

#### <工学部開講科目>

建築史, 都市デザイン論

#### <経済学部開講科目>

地理学(含地誌), 自然地理学, 交通論, 流通論, 環境経済論, マーケティング, 日本経済史, アジア経済論

#### <課外講座>

旅行業務取扱主任者講座

## 3. 国際協力モデル ~地球市民として国際貢献~

### 【趣旨】

国際協力の職業に携わることを目指す者にとって, 政治経済, 法律, 外交, 国際関係などの基礎的教養は必須であり, 地球的な規模で人権, 環境, 貧困, 紛争・災害, 難民問題などについて考え取り組むための現代的知識も身につけるべき要件となる。以下に示すのは, 世界全体をみる視点と地域を理解する視点を養うための基礎的科目に加え, 実践の場に即した具体的内容も講義する科目を含んだ履修モデルである。このほか, 積極的に世界や地域へと出て行くための, フィールドワークや演習における学生諸君の自主的な学習が望まれるのは言うまでもない。

### 【将来の職業】

国連, 各種 NGO, ODA 実施機関(国際協力事業団や海外経済協力基金など), 各種の開発援助専門機関, シンクタンク, 開発コンサルティング企業など。

### 【科目履修モデル】

#### <全学共通科目>

##### ・教養科目

キャリア形成, 健康科学科目(=自由選択)

人文の分野(4単位以上)

社会, 自然科学のうち以下の科目群【教養】の中から18単位以上

##### ・外国語科目(=英語必修)

#### <専攻科目>

##### ・専門基礎科目(=必修)

##### ・専門基幹科目(=入門講義必修, 英語選択必修)

##### ・専門展開科目

地域言語(=必修)

選択必修科目のうち以下の科目群【展開】の中から34単位以上

##### ・総合演習(=必修)

##### ・関連科目

選択科目のうち以下の科目群【関連】の中から16単位以上

【教養】社会の分野: 政治学, 人文地理学, 法学, 人間と環境, 国際関係概論 から12単位以上を選択。

自然の分野: 自然科学論 ほか1科目を選択。

【展開】日本文化研究, 国際文化交流研究から最低8単位ずつ履修するほか, 国際社会研究(とくに国際事情 ~ )を重点的に履修。

【関連】国際政治学 ・ ，国際法 ・ ，経済地理 ・ ，中国経済論 ・ ，アメリカ経済論 ・ ，ヨーロッパ経済論 ・ ，国際法 ・ ，地域国際協力特論（以上，法学部開講科目）。環境社会論，環境計画論（以上，人間科学部開講科目）。アジア経済論 ・ ，自然地理学 ・ ，ラテンアメリカ経済論 ・ （以上，経済学部 ・ 開講科目）。

#### 4．日本語教員モデル ～日本語を学びたい人は世界各地に～

日本語教員（外国人に日本語を教える教師）を目指す人たちは、「関連科目」として開講されている「日本語教育研究」の全科目を履修するのに加えて、「日本語教員養成課程」（「資格教育課程」を参照）に登録して，必要な科目を履修する。

【科目履修モデル】（教養科目は含まない）

|            |           |
|------------|-----------|
| 専門基礎科目     | 12単位      |
| 専門基幹科目     | 10単位      |
| 専門展開科目     |           |
| 地域言語       | 8単位       |
| 日本文化研究     | 12単位      |
| 国際文化交流研究   | 12単位      |
| 国際社会研究     | 10単位      |
| 総合演習       | 10単位      |
| 関連科目       |           |
| 日本語教育研究    | 22単位（全科目） |
| 外国語学部ゼミナール | 4単位       |

---

合計 100単位

#### 5．博物館学芸員モデル ～歴史・文化をより多くの人たちに～

博物館は歴史・芸術・民俗などに関する資料を収集・保管して調査・研究をおこなうとともに，年に数回開かれる展示を通して，人々が歴史や文化に身近に親しみ，関心を高めてもらうための場を提供する役割を担っている。そのため，博物館の学芸員を目指す者は，日本の歴史・文化・民俗全般に通じ，調査・研究に必要な知識と技術を習得するとともに，その成果を広く人々にうたえかけるためのノウハウを身に付ける必要がある。学芸員に関する科目以外に次のような科目を習得しておくことが望ましい。

【科目履修モデル】

|                 |                |
|-----------------|----------------|
| 専門基幹科目          |                |
| 選択必修 6 単位       |                |
| 英語              |                |
| ・日本文化英語演習 ，     | 2 単位           |
| ・英語研究 A または B   | 2 単位           |
| ・CALL / LL 演習 ， | または海外英語研修 2 単位 |
| 専門展開科目          |                |
| 選択必修 8 単位       |                |
| 地域言語            |                |
| ・入門中国語 A ，      | 2 単位           |
| ・入門中国語 B ，      | 2 単位           |
| ・応用中国語 A ，      | 2 単位           |
| ・応用中国語 B ，      | 2 単位           |
| または             |                |
| ・入門朝鮮語 A ，      | 2 単位           |
| ・入門朝鮮語 B ，      | 2 単位           |
| ・応用朝鮮語 A ，      | 2 単位           |
| ・応用朝鮮語 B ，      | 2 単位           |
| 選択必修 34 単位      |                |
| 日本文化研究          |                |
| ・日本文化論          | 2 単位           |
| ・日本文化論          | 2 単位           |
| ・日本芸能論          | 2 単位           |
| ・日本芸能論          | 2 単位           |
| ・日本思想史          | 2 単位           |
| ・文化資料学          | 2 単位           |
| ・日本民俗学          | 2 単位           |

|               |      |          |      |
|---------------|------|----------|------|
| ・日本文化史        | 2 単位 | ・日本文化史   | 2 単位 |
| 国際文化論         |      |          |      |
| ・国際文化論        | 2 単位 | ・国際文化論   | 2 単位 |
| ・国際文化論        | 2 単位 | ・文化比較論   | 2 単位 |
| 国際社会研究        |      |          |      |
| ・国際社会論        | 2 単位 | ・国際事情    | 2 単位 |
| 関連科目選択 1 6 単位 |      |          |      |
| ・情報処理         | 2 単位 | ・情報処理    | 2 単位 |
| ・日本政治史        | 2 単位 | ・日本政治史   | 2 単位 |
| ・ジャーナリズム論     | 2 単位 | ・出版編集実務論 | 2 単位 |
| ・広告文化論        | 2 単位 | ・観光論     | 2 単位 |

#### 6. 二言語重点モデル ~英語圏を越えて活躍~

【趣旨】グローバルな言語としての英語の他に、学科の地域言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・中国語・朝鮮語）も、より深く学ぶ。二つの言語に重点を置き、より高度な国際人としての素養を身に付ける。本学科の地域言語は、いずれも単一の国家（地域）に限定的に使用されているものではない。英語がグローバルな国際語であるならば、これらの言語は、準グローバルな国際語またはローカルな国際語と言える。

##### 【科目履修】

学科の科目である英語 2 8 単位に加え、もう一つの言語については「地域言語」（8 単位）と地域言語特講（4 単位）の他に、他学部・他学科向けに開講されている「外国語科目」の「中級」や「上級」を履修し、語学力のいっそうの向上をはかる。また、選択した地域言語に関係する「国際文化交流研究」科目群や「国際社会研究」科目群の授業、関係する他学部他学科の授業を履修し、その地域への理解を深める。

##### 【資格について】

地域言語に関係する資格としては、外部機関が行っている各言語の検定試験がある。地域言語 8 単位の履修により、各言語の検定の 4 級あるいは 3 級程度の実力が養成される。2 言語重点コースで学ぶことにより、さらに上位の級に合格することが可能となる。

##### 【卒業後の進路】

就職先については、海外（英語圏および選択した言語の地域）に展開する商社・金融機関・製造業・サービス業、または旅行業・観光業（日本からの海外旅行に関する業種、外国からの観光客の受け入れに関する業種）などが考えられる。

パターン1

|      |   | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 卒業要件単位 |            |
|------|---|-----|-----|-----|-----|--------|------------|
| 英語   | 外国語科目<br>英語                               | 8単位 | 6単位 |     |     | 14単位   | 必修         |
|      | 専門基礎科目                                    |     | 4単位 | 4単位 |     | 8単位    |            |
|      | 専門基幹科目                                    |     | 6単位 |     |     | 6単位    |            |
| 地域言語 | 地域言語<br>入門・応用                             | 4単位 | 4単位 |     |     | 8単位    | 最大<br>16単位 |
|      | 外国語科目中級                                   |     | 4単位 |     |     |        |            |
|      | 外国語科目上級<br>(関連科目)                         |     |     | 6単位 |     |        |            |
|      | 地域言語特講<br>(関連科目)                          |     |     | 4単位 |     |        |            |
| その他  | 選択した地域言語に関する<br>国際文化交流研究・国際社会研究・他学部他学科の科目 |     |     |     |     |        |            |

パターン2

|      |   | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 卒業要件単位 |                    |
|------|---|-----|-----|-----|-----|--------|--------------------|
| 英語   | 外国語科目<br>英語                             | 8単位 | 6単位 |     |     | 14単位   | 必修                 |
|      | 専門基礎科目                                  |     | 4単位 | 4単位 |     | 8単位    |                    |
|      | 専門基幹科目                                  |     | 6単位 |     |     | 6単位    |                    |
| 地域言語 | 地域言語<br>入門・応用                           | 4単位 | 2単位 | 2単位 |     | 8単位    | 関連科目<br>最大<br>16単位 |
|      | 外国語科目中級                                 |     | 4単位 |     |     |        |                    |
|      | 外国語科目上級<br>(関連科目)                       |     |     | 6単位 |     |        |                    |
|      | 地域言語特講<br>(関連科目)                        |     |     | 4単位 |     |        |                    |
| その他  | 地域言語に関する<br>国際文化交流研究・国際社会研究・他学部他学科の科目など |     |     |     |     |        |                    |

## 【その他の注意事項】

1. 本学科を卒業するためには合計128単位以上の修得が必要だが、各科目群ごとに最小限の履修単位が定められているので、「卒業要件」一覧表をしっかりと見てほしい。
2. 2年次から3年次へ**進級**するためには、FYS 2単位、国際文化交流基礎演習2単位、英語10単位以上をふくめて、60単位以上を修得しなければならないので注意してほしい。
3. 「外国語科目」としては「英語」を必修としている。学科専攻科目としての「英語」とあわせ、総体として28単位の**英語**を学ぶのだと理解してほしい。
4. **TOEIC**を3回学内で受験してもらうことになっている。その成績によって6単位まで**認定**される制度もあるので、積極的にチャレンジしてほしい（「**各種検定合格者の単位認定に関する規程**」参照）。
5. **TOEIC**のほかにも、**TOEFL**、実用英語技能検定、実用フランス語技能検定、ドイツ語技能検定、**DELE**：スペイン語技能検定、スペイン語技能検定、ハングル能力検定、漢語水平考試について**単位認定制度**がある。（「**各種検定合格者の単位認定に関する規程**」参照）。
6. 本学が推薦する**海外研修制度**の所定プログラム（「海外語学研修」）を終了した場合には、6単位まで単位が認定される制度があるので、積極的に利用してほしい（「**海外語学研修の単位認定に関する取扱規程**」参照）。
7. **英語の教職課程**を履修する場合、「教科に関する科目」は英語英文学科の開講科目を履修することになるが、16単位を上限として、国際文化交流学科の「関連科目」に算入できる。

以上